



2019年度 熊本県学校事務

研究会・総会 速報

2019年6月28日発行

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目次～

- 開会行事
- 講演
- 全体研究会
- 総会研究基調

大会テーマ：変革の時代に対応する学校事務の創造
— 子どもの豊かな育ちを支援する学校事務 —

期日：2019年6月14日（金）

会場：くまもと森都心プラザ

2019年6月14日（金）くまもと森都心プラザにて、2019年度熊本県学校事務研究会・総会が開催されました。

当日は 熊本県学校事務研究協議会（以下 熊事研）会員の皆様を始め、他県や県立学校から400名を超える参加をいただき、参加の皆様方のご協力により、盛会のうちに終了することができました。ありがとうございました。

開会行事

- | | | |
|--------|-------------------------|---------|
| ・開会宣言 | 熊本県学校事務研究協議会 副会長 | 氏原美和子 |
| ・主催者挨拶 | 熊本県学校事務研究協議会 前会長 | 上田 千浩 |
| ・来賓挨拶 | 熊本県教育庁 教育総務局 学校人事課 審議員 | 井手 正直 様 |
| ・来賓紹介 | 熊本県学校事務研究協議会 事務局長 | 平尾 幸夫 |
| 来賓 | 文部科学省 教育総合政策局 | |
| | 地域学習推進課 地域学校共同活動推進室 専門職 | 西 祐 樹 様 |
| | 熊本県教育庁 教育総務局 学校人事課 審議員 | 井手 正直 様 |
| | 熊本市教育委員会 教育次長 | 岩瀬 勝二 様 |
| | 熊本県市町村教育委員会連絡協議会 会長 | 笠 久美子 様 |
| | 熊本県小中学校長会 副会長 | 書川 欣也 様 |
| | 熊本県立教育センター 副所長 | 松本 博文 様 |
| | 熊本市教育センター 所長 | 大江 剛 様 |
| | 熊本県PTA連合会 会計理事 | 佐伯 知彦 様 |
| | 熊本県公立学校事務職員協会 副会長 | 松田 庸伸 様 |
| ・閉会宣言 | 熊本県学校事務研究協議会 副会長 | 氏原美和子 |



講演 『「学校事務」という仕事について考える』 ～経営参画に働き方改革、コミュニティ・スクール・・・ 学校事務職員それぞれに合った「役割」を考える～

講師 文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課
地域学校協働活動推進室 地域学校協働推進係

西 祐樹 氏

講師の西さんは、7年間の福岡県春日市教育委員会での勤務経験があり、コミュニティ・スクール（以下：CS）に限らず、学校事務職員の職務について非常に具体的な話を交えつつ講話をいただきました。

冒頭では、学校を取り巻く社会の現状についてお話しされ、少子高齢化による学校予算の減少及び削減、学校の統廃合、子育ての変遷、グローバル化、情報化、Society5.0等、様々なキーワードが出てきました。時代の変化に伴い、学校の役割が増えていることで、働き方改革を含めた学校現場での業務改善を求められている。業務改善として、数年後になくなる仕事として学校事務（行政職）があり、コンピュータに代替されにくい「創造性」等を必要とする業務が残ってゆくのではないかと。この時代の流れの中でなされた学習指導要領の改訂では、主体性、多様性、協働性がキーになっている。学校が社会に情報を出していくこと、教育課程を、社会と共有して運営していくことが大切だということでした。

また、学校事務職員がCSに関わる必要性について話されました。教育課程を社会と共有するツールの1つとしてCSがあり、学校運営の核になる仕組みであり、目標、ビジョン、課題を共有しつつ運営していく中で、実は学校事務職員の業務が大切なこととしてたくさん含まれている制度であるということでした。CSで学校運営協議会を開催し、与えられた予算を、CS運営のために、いかに効率的に使っていくのかを、地域からの意見をいただきながら議論することで学校運営を「マネジメント」できる場所であるとのことでした。

学校事務職員は財務・総務に豊富な知識を持っているということで、市町村教委との交流の必要性についても話されました。双方の事務について話し合い、業務改善できることがかなりあるであろうとのことでした。春日市では毎月事務研があり、教育委員会も同席し、学校の課題の共有をされていたそうです。

最後に、これからの学校事務について、価値観の変革が必要という話をされました。得意不得意もあるし、経験年数の違い・役割の違いもあるが、自分のやりがいを見つけてやっていくこと

が一番大事とのことでした。また、学校の役割が変わってきたことで課題もたくさんあり、限られた資源の中でより良い環境づくりをしないといけない現状がある。社会全体で子どもを育てていくことを念頭に置き、大人が何をできるかを考えていくことが重要。家庭・地域を巻き込んで、自分たちが当事者になって行動していく。そういった志を持った学校を作ってほしい。と結ばれました。



事例発表

午後からは、菊陽町学校事務センターと、上天草市大矢野学校事務センターの2つから、事例発表をしていただきました。

①菊陽町学校事務センター

菊陽町学校事務センター（菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 事務主任） 宮崎明美

・平成26年度に設置された、第1期事務センターの1つ。学校事務職員が活躍できる場所として活動している。菊陽町は県下で人口増加率が最も高く、児童数・生徒数もそれに伴って増加している。そのため大規模校及び中規模校がほとんどとなっている。

・県費グループ 総務グループの2つがある。

・研修グループが別々にあり、県費グループ及び総務グループのメンバー数名が重複して所属している。1番の目的を業務の効率化とし、業務における共通理解、事務職員の能力の向上、業務内容の平準化も同時に図っていく。

・総務グループには3つの目的がある。

目的1 学務課（地教委）との連携推進、町費及び就学援助事務の効率化

目的2 事務職員の負担軽減、事務改革の推進

目的3 教員の負担軽減

・研修グループでの事例研修

初任者研修について、県費グループの研修と合わせて実施。周囲の事務職員の知識向上・意欲向上にもつながり、意識改革の良い機会となっている。初任者が言葉にすることを大切にしている。また、それぞれの個性を大切にし、自由に発言できる空気を作っている。新学習指導要領に関する研修では、教材を取り扱う業者に来てもらい、事務センターで教材の取扱い方についてデモンストレーションをした。業者にと



っても、大変いい機会ととらえていただいた。また、外部からスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、福祉事務所職員等を講師として招き、業務に関する研修をしてもらった。学校事務職員が「つなぐ」役割があることを再認識できた。働き方改革については、法令順守等の研修を行い、行政職の立場から正しい知識をどう伝えていくかを議論した。

また、平成27年度より、学務課とのワークショップを始めている。内容は、互いの業務内容の見直し及び情報共有であり、同じ目標に向かって進む「win-win」の関係を築くことを目的としている。成果の1つとして、小中学校の予算が1本化され、事務センター内で効果的な活用が可能になった等がある。

さらに、教職員向け広報誌「ジムダス」を月1で発行し、情報共有を行う。また、学校事務センターの活動周知のためにA3版リーフレット「じむなび」を作成するなど、精力的に活動している。



〈発表された3人〉

事例発表

②上天草市大矢野学校事務センター

- 大矢野地区の2つの共同実施を前身として、平成27年度に設置。

- 本年度のキーワード「貢献」

- 市費の予算運用について

学校間の配当予算を、事務センターの裁量で効果的に運用できるようなシステムを作成。教育委員会へは、年度末に配当変更の具申をした。上天草市には学校事務センターが2つあるが、事務センター間でも予算運用が出来るようになっている。

- 重点的取組について

自主的、自発的な研修を大切にし、意見を的確に伝えたりするコミュニケーション能力の向上を図る。時期課題としては、「学校での現金をなくそうプロジェクト」として検討している。去年から2年続けて初任者が入っているため、研修が充実している。自主自発的な実践をし、実感を得るとやりがいにつながる。

事務センター業務を増やしすぎると過重労働につながる恐れがあるため、所属校での勤務を念頭に置き、事務センターでしかできない業務をする、ということをお願いしている。

「事務センター」というワードをあらゆる場面で多用し、浸透させることを心掛けている。



パネルディスカッション

助言者	文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学校協働活動推進室	地域学校協働推進係 専門職	西 祐樹 氏
パネリスト	菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 上天草市立大矢野中学校	事務主任 主任事務長	宮崎明美 前田和美
コーディネーター	八代市立八代支援学校	事務主任	平木雅万

パネルディスカッションでは、今年度の研究テーマである「意識変革から行動変革へ」に基づいて、小さな1歩を進められるような会になるようにと、コーディネーターの平木先生よりお話しをされ、始めていただきました。

また、事務センターの事例発表でも導入していましたが、スマートフォンを用いてリアルタイムな会場参加型のアンケートを実施しました。その中で、「事務をつかさどる」ことへの法改正について、身の周りで業務改革がなされたか」という問いに対し、ほとんどが「なされていない」という回答でした。教員の働き方改革はあっても、学校事務職員の働き方改革はどのようにしたら良いのか、単純に業務が増えているのではないかと、といった法改正に対して懸念する意見も上がりました。助言者の西さんから、実際の学校事務職員の取組を例に、学校事務職員だからこそできる業務改革があるというお話もいただきました。学校事務職員が1人で



業務改革をすることは難しいため、関係機関をうまく巻き込んで取り組んでいる例を、2つの事務センターより説明していただきました。

関係機関の1つとして教育委員会がありますが、教育委員会との連携を進めるに当たり、同じ目標を持つことの大切さについて話がありました。助言者の西さんからは、「自分自身が学校と教育委員会との橋渡しをする」という意識を持つことが重要とのことで、コーディネーターとしての学校事務職員の役割について話されました。そして、事務センター長など、組織をまとめる役割にある人は、若い人たちの意見を聞き入れ、次の世代に繋ごうというリーダーシップが大切である。OJTでは、みんながフランクに、対等に話ができる場の確保をすすめていくことが重要と話されました。菊陽町学校事務センターでは、若手職員が良いアイデアを出してくれることもあり、それにより研修が充実することもある、と話されました。



西さんは、熊本はしっかりとしたグランドデザインがあって、進んでいると思う。前向きな会だと感じた。いろんな情報を外に出て、自分でゲットすることが大事。少しでもできることから取り組んでいくことが大事。全国的な「変わろう」とする意識を作りたい。ぜひ、全国規模でつながってほしい。今日は貴重な機会をいただきありがとうございました、と結ばれました。

最後にまたQRコードで会場へ質問をしました。その結果、今日の研究大会で、少しでもできることからやってみようと思う人の割合が7割を超えていました。たいへん良い学びができたのではないかと、今日の会を次に繋げて、いろんな発想でいろんな学校事務を作ってください、と、平木先生が結ばれ、パネルディスカッションは終了しました。

研究基調 『「意識変革」から「行動変革」へ』

～子どもの豊かな育ちを支援する学校事務～

熊事研研究部

研究基調では、平野研究部長より、これまでの研究部の取組を説明し、今年度の研究部の研究テーマを「意識変革から行動変革へ」とすることと説明がありました。熊本版グランドデザインの概要及び考え方を再度説明し、なぜ「意識変革」が必要なのかをおさらいしました。そして、これからは意識を行動に移すこと、すなわち「行動変革」の時代であるということ、具体例としては、学校事務職員が運営委員会に積極的に参加し、教育活動に計画段階から関わるということが重要である、ということの説明をしました。

また、今年度の研究ビジョンとして「行動変革～主体的に!! 積極的に!!～」を掲げ、学校マネジメントのためにどのような考え方が必要であるのか、どうすれば前向きになれるのかを、書籍「チーズはどこへ消えた？」を例に説明しました。そこから考えられる行動変革として、現状に対する思い込みから考え方を換え、客観的に冷静に教育活動を分析する。新しい環境に適応するために変化に気付き対応するために、主体的に学校づくりを推進するリーダーの育成を熊事研が組織として取り組むということ提案しました。

